

# 大祝とは

大祝とは、諏訪明神の依り代として諏訪社の頂点に位置した役職で、上社大祝は古代から近世末に至るまで世襲され「諏方氏」を名乗りました。中世までは諏訪の領主として政治権力も握っていましたが、江戸時代に入り藩主諏訪家と大祝諏方家ができ、完全な政教分離がなされました。明治維新を経て神官の世襲制度が廃止されるに伴い大祝職も廃止されました。生き神様を祀る信仰が存在しつづけた神社は全国でも珍しいといわれています。

# 諏訪上社 大祝諏方家住宅



## 交通のご案内

### 〔JR利用〕

JR上諏訪駅からかりんちゃんバス市内循環線で約40分  
上社、上金子入口、どんどん橋各バス停より徒歩5分

JR上諏訪駅からタクシーで約20分、JR茅野駅からタクシーで約15分

### 〔車利用〕

中央自動車道諏訪ICより車で5分

## 見学時のお願い

- 貴重な文化財ですので、禁煙にご協力願います。
- 柵より内側を散策したい場合は、下記までご連絡ください。

## ● 連絡先 ●

諏訪市教育委員会生涯学習課文化財係  
諏訪上社大祝諏方家史跡整備保存会事務局

**Tel.0266-52-4141**

(内線582)

# 大祝邸の 移りかわり



大祝の邸宅は「神殿」と呼ばれ神聖な場所とされていました。中世までは、前宮の麓に位置する神殿にありました。現在のこの一帯に移動した理由や時期には諸説があり明らかにはなっていませんが、遅くも織豊期にはここに居館を構えたと考えられ、それに伴い周辺に宮田渡と呼ばれた集落が形成されました。東に流れる旧宮川は堀の役目を果たしていたとも言われます。

# 諏訪上社 大祝諏方家住宅

信州/諏訪

SHINSHU SUWA



## 江戸時代の痕跡

### イチヨウ(諏訪市天然記念物)

推定樹齢200年のイチヨウは、雌木では市内最大のもので、仏法紹隆寺の雄木のイチヨウ(諏訪市天然記念物)と夫婦であるとの伝説があります。



### 表門

棟門と呼ばれる形で、天保期の建物です。かつての敷地の西縁にあったものが、30mほど後退して現在地にあります。控柱の基礎や潜り門、袖塀に近年の改修が見られます。

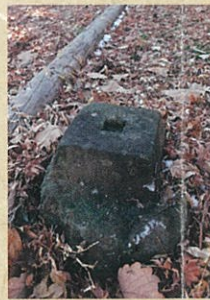


### 土蔵

壁は、柱に刻まれた溝に板を落とし込む「おとし蔵」です。出入り口の厚い漆喰塗の戸などにその格式の高さがうかがうことができます。

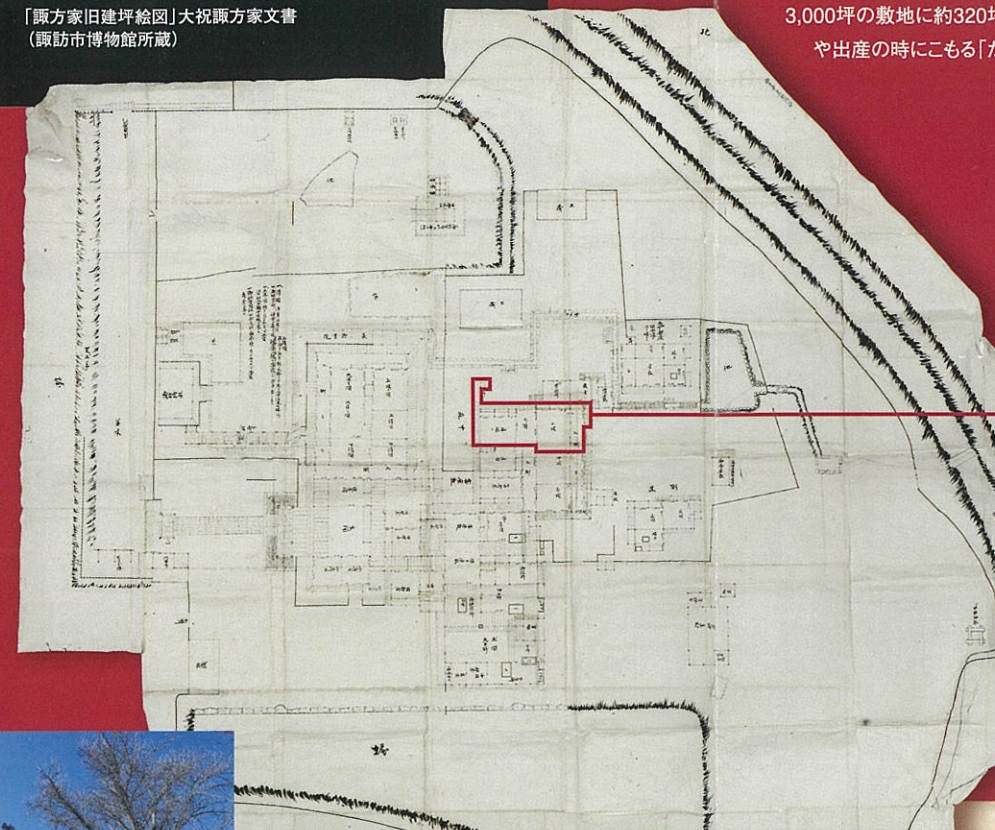
### 礎石

庭のあちこちに、縁束を建てた礎石が残っています。かつての住宅の規模を示す貴重な文化財です。



## 天保年間改築当時の屋敷平面図

「諏方家旧建坪絵図」大祝諏方家文書(諏訪市博物館所蔵)

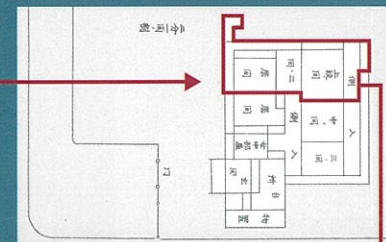


文政13年(1830)に焼失したのち天保年間(1830~44)に再建された屋敷は、約3,000坪の敷地に約320坪の主屋が建てられ、2棟の土蔵、別荘、女性が月経や出産の時にこもる「たや部屋」などの別棟も備える広大なものでした。

## 昭和初期当時の屋敷平面図

出典:「史蹟名勝天然記念物調査報告」第拾参輯(長野県、昭和7年)

時代を経て、敷地とともに主屋も縮小されました。昭和初期には主屋は約80坪になり、元来居室として使用していた棟に江戸時代の玄関を取り付けた形になっていたことがわかります。



## 現在の屋敷平面図

平成22年調査

主屋はさらに縮小し約43坪となっています。建物の縮小に伴い小屋組の多くを天保期の古材を転用して改修、また南側の部屋・台所は新材を使用して増築されています。ただし、北側の3つの部屋は、ほぼ天保年間の姿を保ったまま現在まで残されています。



### 釘隠し

長押しに打ち込まれた釘を隠すための装飾で、旧居間には鶴、旧二ノ間には亀、旧中ノ間には松葉菱など、部屋ごとに異なるものを使っているなど意匠を凝らしています。

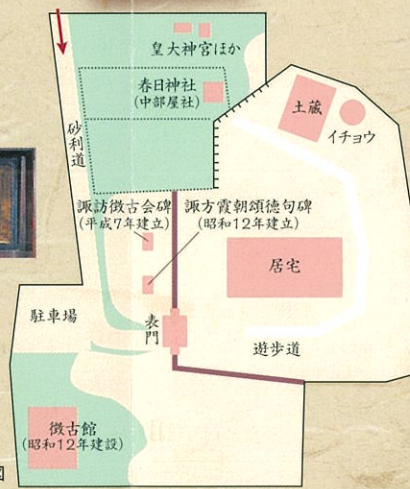


### 天袋襖絵



### おがた 笱形の転用

江戸時代の笱形(大瓶束の左右にある装飾彫刻)が玄関上に据えられています。



●敷地内配置図